

令和7年度北上市市政座談会
～きたかみまちづくりトーク「WAになって話そう」～in 二子
報告書

日時 令和7年11月26日（水） 午後6時から7時まで
場所 二子地区交流センター
参加者 地域参加者：34名
市出席者：10名 ※他事務局等7名

グループトークテーマ

- ①：二子の農業と自然環境を守るために何ができると思いますか？
- ②：これからの地域・自治会活動に求められるものは何だと思えますか？
- ③：住んで良かったと思える地域であるために、何が必要ですか？
- ④：市立大学はどうあってほしいですか？

①-1グループ

- ・農業の現状について、今年から引き継いで大変さを実感した、耕作放棄地が増えたことによる農業振興地域の問題、補助金を活用する難しさ、草刈りをどうするかが一番の課題となっていることなど、それぞれの経験を踏まえた意見があった。また、農作業だけではなく、地域の草刈り活動なども高齢化の問題が出てきているという話もあった。
- ・機械による草刈りの負担軽減や、耕作していない土地のレンタルや市民農園について意見が出た。市出席者からは、草刈り機の補助金の案内や、市民農園について確認してみたいという話があった。
- ・有機栽培の野菜に興味を持つ若い世代が増えており、自分たちで野菜をつくるため土地を探しているという話を聞くので、何か良い形でマッチングができれば二子への定住促進にもつながるのではないかという意見があった。

①-2グループ

- ・農業や自然環境を守るために、耕作放棄地を増やさない、担い手を育てる、農業の基準をしっかりと守り環境に配慮する、耕作放棄地を観光農園や市民農園のような形で活用していく、など様々な意見が出された。
- ・農業の担い手について、若い世代がいきなり本格的にやるのは難しい、現在兼業で農家をやっている人たちへの手厚い支援が必要、などの意見があった。農業の所得が増えないと兼業農家も厳しい状況になるので、どうやって支えていくかが課題であるという話があった。
- ・農業に直接関わっていない市民の理解も必要であり、田んぼの水面の反射やカエルの鳴き声などの苦情もあるという話があった。地元の農産物を通じて農業の価値を理解してもらい、市民全体で農業を支え協力してもらいたいという思いが共有された。

②-1グループ

- ・自治会の現状について、草刈りの大変さや若い世代に自治会活動の意味や楽しさを上手く理解してもらえない、新しく地域に来た人との交流が難しいことなどが挙げられた。それぞれの地区で行っている取り組みも紹介され、子どもたちが民俗芸能を披露する機会を設けている、草刈りなどは強制せず、時間も決めてやっているという話があった。
- ・工場新設の関係で、二子地区でも新しい家やアパートが建ち、地域外から来る人が増えたことにより、班編成の見直しや自治会運営の仕方、コミュニケーションの取り方などに課題が出てきているという話があった。地域で交流の仕方を考えていくうえで、市からも提案や支援があれば良いという意見がでた。
- ・他の地区でも同じような悩みを抱えていたり、取り入れることが出来そうな取り組みを知ることができるので、今後も情報交換の場が欲しいという感想があった。

②-2グループ

- ・自治会について、自治会活動には参加してきても役職を持つと何をして良いのか分からない、どうしたら人を呼び込めるのかいつも悩む、同じ地域に住んでいても顔が分からないケースが増えた、役所の出先機関のようになっている、地域の特色を活かして、交流を持ちながら支え合う関係性をつくれる自治会になっていくのが、これから目指すべき姿ではないかと考えている、等の意見があった。
- ・悩み事に対して、他の自治会のやり方を聞く、地域内の交流を深める、自治会活動に参加しやすい職場体制や子どもたちが地域と関われる教育体制が必要、具体的な手引きがあると助かる、対話して参加を促す等のアイデアや手法が挙げられた。
- ・自治会の役割を住民にもっと周知してほしいという意見があり、市出席者から地域づくり課で作成した自治会ハンドブックを活用してほしい旨が伝えられた。

③-1グループ

- ・住んで良かったと思える地域について、二子らしい交流が続いていくこと、民俗芸能が継承されていくこと、住んでいる場所についてもっと考えられるような地域になること、人が集まってにぎわえる場所がもっとあること、子どもたちが元気に遊び、行事に気軽に参加できる環境があることなどが挙げられた。
- ・神楽や火防祭、お祭りなど、続けていくことへの難しさについて話があった。高齢化や担い手不足などが挙げられ、交流人口や関係人口を増やして他の地域からでも参加できるような発想も必要ではないかという意見もあった。
- ・二子さといもについて、二子地区でいものこ汁を食べられる場所があると良い、大規模でなくても、いものこ汁のイベントがあると良いなどのアイデアも出た。自分たちが何をすべきか考えていくことが大事だと思う、という感想があった。

③-2 グループ

- ・二子地区の良い所について、民俗芸能についての意見が複数あった。大人から子どもまでつながりを持てる交流の機会であり、神楽や鬼剣舞など二子地区のたくさんある団体の活動を継続していけるようにしたい、昔は禁止されていた女性の参加や掛け持ちなども規制をかけずにできれば良いという意見があった。
- ・自然環境が良いという意見もあった。飛勢城址公園は眺望も良い場所なので、もう少し安全に遊べるように整備することで、地域の行事や祭りなどにも活用し、人が集まる場所にしたい、という話があった。
- ・工業団地に新しく工場が建ったことで、地域内の交通事情が変わっているという話もあり、車の交通量が増え、産業道路が渋滞になると狭い道路を車が通るため、子どもたちの通学が危険だという意見もあった。

④グループ

- ・大学設置について、少子化対策として先行投資しても良いと思う、地元企業に就職してもらうことで定住者が増えると思う、北上市の政策の方向性が分からず心配なところもある、大学誘致は定住できる仕事があるかも重要である、子どもが受験生なので、大学がもし既にあれば選択肢になっていたと思う、等の意見が出された。
 - ・まちなかではなく、広い郊外の方が良いのではないかという意見もあり、もし北上市に大学ができるのであれば、まちなかだけではなく二子地区も選択肢に入れてほしいという意見があった。また、既存の大学などとの兼ね合いも必要だという話があった。
 - ・大学ができることで、入った学生が二子の農業に興味を持って機械の研究をしてくれたり、工場関連の企業と上手くタイアップしながら地域の行事に関わってくれば良いという話もあった。
-

グループトークの様子



**二子地区の皆さま
たくさんのご参加ありがとうございました**